

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101927		
法人名	社会福祉法人緑栄会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	山梨県甲府市古上条町163-1		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 11 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創設者が歯科医師であるため、「口腔ケア」に取り組み、入居者が「食事を美味しく、楽しく、ゆったりと味わえるよう」口腔機能を維持し、ひいては自立や生活の質の向上を図るようにしている。看護師を配置し(常勤1名)、健康管理面において健康維持と異常の早期発見と対処に努めている。生活保護受給者など経済困窮ケースや虐待ケースなど、すぐにでも対応しなければならぬことの援助を率先して行っている。ご本人を尊重しつつ、家族のような親しみのある関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の健康を第一に、一人ひとりの笑顔を皆が一つになって支援されています。今までの生活を大切に、またその力を継続されるように、誰もがありのままのままでいいということを見守ってくれている感じがします。食べる楽しみを持ってもらう事と健康管理のために口腔ケアに力を入れているので、看護師を配置するなどの介護が実践されていました。どんな環境の方でも公平に受けられる福祉が継続されていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわかば

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、基本理念の大切さを学んでいる。	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、基本理念の大切さを学んでいる。	個々の利用者に向き合い、みんなが1日1回は笑いあえるそんな心温まる支援に繋がっていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナの影響で、地域との連携が以前よりでききていない。感染予防対策をしながらできる地域連携を模索していきたい。地域民生委員などは電話や手紙などで常に状況を連絡している。また、近所の住民と庭や畑の話題でコミュニケーションをとっている。	新型コロナの影響で、地域との連携が以前よりでききていない。感染予防対策をしながらできる地域連携を模索していきたい。地域民生委員などは電話や手紙などで常に状況を連絡している。また、近所の住民と庭や畑の話題でコミュニケーションをとっている。	コロナ禍の為地域とのつながりは自粛していました。職員が地域の防災訓練に参加し繋がりを持っていました。コロナ禍以前は地域の方と中学校のグラウンドを借り、グラウンドゴルフや傾聴ボランティア、幼稚園児の訪問、中・高校の花の慰問などの交流がありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中、近所の住民とコミュニケーションをとっている。近隣の住民の庭に成っている花や果物など頂くなどもある。	散歩中、近所の住民とコミュニケーションをとっている。近隣の住民の庭に成っている花や果物など頂くなどもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、ホームの状況報告を行っている。	2か月毎に開催し、ホームの状況報告を行っている。	コロナ禍の為書面での会議として、事業所の報告や利用者の様子の報告を送付し、意見をいただいていた。運営会議の意見はサービス向上に繋がっていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に地域包括職員や民生委員が窓口となり、情報交換を行っている。	運営推進会議の際に地域包括職員や民生委員が窓口となり、情報交換を行っている。	運営会議の報告や地域との情報交換を伝え、福祉の手を差し伸べられるように情報やアドバイスを受けていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	身体拘束等の研修は委員会を中心に、年2回研修が行われていました。事業所は所長、介護主任が見回りをし、身体拘束のない介護が行われているかチェックされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ、管理者や委員が月1回の見回りなどを行い、身体拘束や虐待がないかチェックしている。	虐待防止委員会を立ち上げ、管理者や委員が月1回の見回りなどを行い、身体拘束や虐待がないかチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の資料など活用し、権利擁護に関することを研修などで現場に周知している。	権利擁護の資料など活用し、権利擁護に関することを研修などで現場に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわかば

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	意見箱の設置はされているが家族の居ない方等があり、活用されていません。介護士や月1回訪問する看護師が健康状態を観察され、意見や要望として運営に反映していました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	随時ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	職員は年1回理事長に手紙を直接渡され、勤務の希望や改善について申し出がされていました。産休や育児休暇の要望は現在はないが、対応する体制はできていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回理事長に直接意見交換できる場を実施している。勤務態度や資格に応じたの正規職員への登用制度を行っている	年1回理事長に直接意見交換できる場を実施している。勤務態度や資格に応じたの正規職員への登用制度を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させているが、コロナ過の為、外部研修は以前より減った。月1回の内部研修で職員教育を行っている。	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させているが、コロナ過の為、外部研修は以前より減った。月1回の内部研修で職員教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過の為、外部研修などの外部の交流回数は減った。理事長や管理者が得た外部の情報などを職員に常時伝え、サービスの向上を図っている。	コロナ過の為、外部研修などの外部の交流回数は減った。理事長や管理者が得た外部の情報などを職員に常時伝え、サービスの向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な調理や洗濯干し、洗濯タミなど職員と利用者が一緒に行っている。	簡単な調理や洗濯干し、洗濯タミなど職員と利用者が一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわかば

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もいるのでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆している	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もいるのでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会は自由に行っていたが、コロナ禍の為、現在面会は中止している。手紙や電話等で利用者の様子を家族に伝えている。	基本的に面会は自由に行っていたが、コロナ禍の為、現在面会は中止している。手紙や電話等で利用者の様子を家族に伝えている。	馴染みの方との面会はコロナ禍のため断っていました。動画を取り家族に発信をされていました。いつもと違う利用者の変化には電話等でつなげていました。家族の居ない方もいますが職員が家族の様に間わりを持っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日利用者様同士が関われるようにラジオ体操やレクリエーション等で交流を図っている	毎日利用者様同士が関われるようにラジオ体操やレクリエーション等で交流を図っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いている。ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取している	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いている。ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取している	利用者に対して担当制にし、今までの生活の様子を伺い、一緒に障子の張替えや日曜大工で、ポストづくりや野菜作りをしながら本人の思いや意向に沿っていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・嗜好を聞いてサービスに活かしている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・嗜好を聞いてサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作の中から現状をみて行く様に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作の中から現状をみて行く様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を聞き、モニタリング・カンファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	ご本人やご家族の要望を聞き、モニタリング・カンファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	申し送りには時間をかけ、個々の様子をしっかりと把握し、モニタリング・カンファレンスを行い、本人が望む介護計画を作成していました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し情報の共有を行い見直しに役立てている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し情報の共有を行い見直しに役立てている		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわかば

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。例えば、アルコールを毎日飲みたいという希望があれば、(ノンアルコールだが)夕食後などに提供している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診を行っているなど。	ご本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。例えば、アルコールを毎日飲みたいという希望があれば、(ノンアルコールだが)夕食後などに提供している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診を行っているなど。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や医院に協力得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている	近所の商店や医院に協力得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診日にご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	定期受診日にご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	独居の方が多かったため事業所での往診は月2回で対応されていました。日常の健康管理には看護師の対応もできていました。看護師は主治医と協力し、家族との連絡も行っていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。	常勤の看護師を2名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、副施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している	管理者、副施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、看護師が中心となり、看取りに向けた体制づくり(家族の意向、主治医の意見、現場職員への方針の統一)を整えている。	管理者、看護師が中心となり、看取りに向けた体制づくり(家族の意向、主治医の意見、現場職員への方針の統一)を整えている。	入所時に本人・家族と終末支援の話し合いがおこなわれ、延命治療等について確認され同意書を作成されていました。医療との連携で高齢者施設への対応もできていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。コロナ禍の為、地域住民の直接の訓練への参加はできなかったが、電話や手紙などで地域住民へ状況を報告した。	年に2回防災訓練を実施している。コロナ禍の為、地域住民の直接の訓練への参加はできなかったが、電話や手紙などで地域住民へ状況を報告した。	災害時の対応は地域の協力体制ができていました。民生委員の防災アドバイスもありました。災害訓練は以前は行っていましたがコロナ禍の為、地域との訓練は行えていません。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に誓約書を作成してもらっている。学習会や指導は実施している。もし職員がプライバシーを損ねる言葉かけがみられた時には、厳しく指導対応処分している。	職員に誓約書を作成してもらっている。学習会や指導は実施している。もし職員がプライバシーを損ねる言葉かけがみられた時には、厳しく指導対応処分している。	人格やプライバシーの尊重は学習会等で職員に周知され、指導が行われていました。トイレや入浴は同姓介護を心がけていますが、難しいときは本人に確認し「ごめんね」の声掛けを行っていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわかば

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	状態に応じて対応している	状態に応じて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容や女性は化粧や整髪(三つ編みなど)髪染めなどを行って	希望により美容や女性は化粧や整髪(三つ編みなど)髪染めなどを行って		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	朝夕の食事は業者委託を行っていますが、昼食やおやつには、敷地内で作った野菜を食材として活用しています。いつまでも食事を楽しむために口腔衛生に力を入れています。野菜作りや配膳下膳の役割を持ち、張り合いの持てる生活につなげていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の主治医の指示のもと個別に提供している	各利用者様の主治医の指示のもと個別に提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ取り組んでいる。主治医の指示のもと看護師が浣腸対応も行っている。	排泄記録をつけ取り組んでいる。主治医の指示のもと看護師が浣腸対応も行っている。	排泄支援に力を入れ、日中はトイレ排泄を促し、早めの声掛け誘導を行っていました。排泄のオムツやリハビリパンツの使用の軽減に努めています。現在は今より重くならないように支援されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行ったり、水分量の調整、便秘薬の調整などを行っている	運動を行ったり、水分量の調整、便秘薬の調整などを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。また、身体状況など検討し機械浴も使用する。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。また、身体状況など検討し機械浴も使用する。	入浴は週2回ですが同姓介護に努めています。勤務体制で行えないときは、了解の上行っています。健康状態によっては機械浴の体制もできていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望やペースにて一人ずつ休息していただいている。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ休息していただいている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわかば

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している	看護師が中心となり、主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、ほとんど戸外への外出はできなかった。そのかわり敷地内庭の散歩を多くしたり、畑などをいつもより充実させて行った。また、庭にベンチやテーブルなどを置き、休憩できるスペースを作り、そこで食事などをした。	コロナ禍の為、ほとんど戸外への外出はできなかった。そのかわり敷地内庭の散歩を多くしたり、畑などをいつもより充実させて行った。また、庭にベンチやテーブルなどを置き、休憩できるスペースを作り、そこで食事などをした。	月1回はデパート外出や外食、御花見や紅葉に出かけ、生活に変化を持ち楽しみとなるようにしていましたが、コロナ禍の為、施設内の庭で職員と手づくりのテーブルを活用し、食事やおやつ、敷地内の散歩を行いました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が介助し、ご家族・友人への電話をを支援している。また、毎月本人が書いた手紙を家族に送っている。(書けない利用者は、職員が代筆している)	職員が介助し、ご家族・友人への電話をを支援している。また、毎月本人が書いた手紙を家族に送っている。(書けない利用者は、職員が代筆している)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを壁に貼り、居心地よく過ごしていただくよう工夫している。また、居室内はタミヤや障子などもあり、昔懐かしい雰囲気のある居室になっている。	季節感のある飾りつけを壁に貼り、居心地よく過ごしていただくよう工夫している。また、居室内はタミヤや障子などもあり、昔懐かしい雰囲気のある居室になっている。	共有空間には利用者の作品等が飾られ、月1回模様替えを行い、憩いの場となっていました。また、おやつ作りを楽しみながら、みんなで交流していました。敷地内には畑があり野菜作りをされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを設置している。利用者様の希望や性格、性別などを判断し、席を決めている。	フロアーにソファを設置している。利用者様の希望や性格、性別などを判断し、席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物(タンスやテレビ、仏壇など)を持ち込んでいただいている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物(タンスやテレビ、仏壇など)を持ち込んでいただいている	今までの生活を大切にしたいと馴染みの家具や日用品をもってこられています。家族の写真を飾っていることもあります。日常のご飯茶わん、汁椀、箸など今まで家で使っていたものを使っていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や廊下に手すりを設置している。車いすでも排泄できるバリアフリーのトイレがある。	各居室や廊下に手すりを設置している。車いすでも排泄できるバリアフリーのトイレがある。		